

ウリハッキョ 우리 학교

Our School

受賞歴：釜山国際映画祭・雲波賞
(最優秀ドキュメンタリー賞) (2006)

9/11(土)

11:30 (開場/door open 11:10)

ジャンル：ドキュメンタリー

字幕：日本語  音声：朝鮮語・日本語



韓国人のキム・ミョンジュン監督が、北海道朝鮮初中高級学校に3年間にわたって滞在し、学校に密着取材して撮影したドキュメンタリー映画。韓国では、釜山国際映画祭で最優秀ドキュメンタリー賞も受賞してヒットを収め、在日朝鮮人と朝鮮学校の置かれている状況を韓国の人々に知らしめた。

日本国内でも、朝鮮学校の現実については(特に日本人には)ほとんど知られておらず、この映画をみて「朝鮮学校のことを初めて知った」という人も多い。朝鮮学校に通う生徒たちにとって日本社会がどのように見えるのかを描いているという点でも、貴重な映画。

現在は入港が禁止されている万景峰(マンギョンボン)号に乗って、北海道朝高の生徒達が北朝鮮に修学旅行に行く際、監督からビデオカメラを預かって現地撮影した映像も必見です。

※「ウリハッキョ」は「私たちの学校」という意味。

邦題：ウリハッキョ
英語題：Our School
原語題：우리 학교
監督：キム・ミョンジュン/Myung Jun KIM
時間：131分/131min.
制作年：2006 制作国：韓国
音声：朝鮮語・日本語/Korean・Japanese

A film about Korean school in Japan.
No English translation is available at this program.

**特別プログラムにつき、
当映画祭の半券(チケット)提示で無料**

映画「ウリハッキョ」は、クィア映画ではありません。関西クィア映画祭でこの映画を上映するのは、私たち自身が「断絶」を引き受けるためです。

この映画を見て「普通に朝鮮学校を描いただけで、特に目新しい情報はない」と述べる人と「知らないことばかりで、最後まで引き込まれた」と言う人。この断絶は、まず映画祭実行委員会の内部にあります。社会に対して「(性的)少数派のことを知って欲しい」「知らない/知ろうとすらしないで済む」という特権の意味を、考えて欲しい」と言っているその言葉は、「私たち」に帰って来ます。

断絶は、映画「ウリハッキョ」を素直に楽しめる人と、それでは済まない人との間にもあります。日本の一般社会と同様に、映画「ウリハッキョ」にも、女性差別や異性愛中心主義や純血主義の問題に対して敏感ではない描写もあるからです。

普段は隠されているたくさんの断絶と向きあい、希望を作るための出発点の一つになることを願って、特別プログラムを開催します。

■本プログラムの入場について

本プログラムは特別プログラムです。関西フリーパスや京都バスでもご入場いただける他、当映画祭の他のプログラムをご覧になった/ご覧になる予定の方は、半券(チケット)提示で無料でご入場いただけます。

(「ウリハッキョ」のみをご覧になる方だけ、1回券の購入が必要です)

※これは、「一人でも多くの人に映画を見てもらいたい」「朝鮮学校を支援したい」という監督の意向を酌んだもので、事実上ほとんどの方が無料で映画をご覧頂けます。その代わりに会場では朝鮮学校支援のカンパ(任意)を呼びかけます。

●なぜ日本に朝鮮人が住んでいるの?朝鮮に帰らないの?

1945年の敗戦まで、日本は朝鮮半島を侵略し植民地にしていました。それは農民からの土地取り上げを含み、経済的な困窮を生み出しました。日本でも安価な労働力を必要としたため、多くの人が、生きるために渡日しました。一部には日本に強制連行された人もいます。その多くは日本敗戦後に帰国しましたが、生活実態のある日本に残った人も多数いました。

在日朝鮮人とは、日本の植民地支配の結果として朝鮮半島から渡日した人たちと、その子孫のことです。特に2世3世になると、そもそも日本で生まれ、日本で生活し、朝鮮語を話さない人も多数です。在日朝鮮人には日本国籍を持っている人も持っていない人もいますが、いずれにせよ、多くの日本人と同様に、日本を生活の基盤にしています。

●在日朝鮮人は、どんな差別を受けているのですか?

民族名を名乗って日常生活を送っている在日朝鮮人はごく一部です。日本の社会は、在日朝鮮人がカムアウトして生活することが困難な社会です。

今でも、在日朝鮮人であるが故に貸家への入居が断られたり、就職できないことがあります。京都の朝鮮学校に民間右翼が押し掛けてきて、生徒に向かって「スパイの子ども」などと罵声を浴びせたのは昨年のごとでした。

大日本帝国時代には、日本に住む朝鮮人(男子)にも選挙権と被選挙権があり、朝鮮人の衆議院議員がいました。現在は、日本国籍がない在日朝鮮人の参政権は一方的に剥奪されたままです。また日本での生活が権利ではなく、一度海外に出ると日本への再入国に日本政府の許可が必要です。

更に、日本の公教育において、朝鮮人であることに誇りを持ったり、朝鮮語を学ぶための教育が、保障されていません。性的少数派の運動は「全ての教室に性的マイノリティーがいる」と言ってきましたが、同様に、全ての教室に在日朝鮮人が居る可能性があります。日本が朝鮮半島を植民地にした「加害の歴史」が、公教育においてちゃんと教えられていないことも、差別を助長しています。

以前は、公営住宅への入居にも国籍条項がありました。在日朝鮮人の運動により国籍条項は撤廃され、日本国籍保持者のみを優遇する差別制度は改められました。現在、公営住宅への同性カップルの入居を求める主張がありますが、これも、異性カップルのみを優遇する差別制度を改める主張です。

●在日朝鮮人は、帰化して日本人になれば良いのでは?

これまでの帰化制度は、単に日本国籍を取るだけでなく、多くの場合日本風に改名することからも分かるように「日本人になる」という意味を持っていました。それは「朝鮮人であること」を否定する事です。この質問は「差別が嫌なら、朝鮮人をやめて日本人になれ」と言うことで、日本人だけを優遇する社会のあり方を維持する機能を持ちます。

ただ一方、現実には国籍による差別がある中で、帰化して日本国籍を取得した後に、裁判で姓を民族名に戻し、日本籍朝鮮人として暮らす人もいます。国籍と民族アイデンティティーとは本来は別のことです。帰化しても日本人にならないという選択は、そのことを明らかにしています。

附記すると、国籍と民族アイデンティティーが同一であることを自明視し、かつそれを強いる態度は、トランスジェンダーの存在を認めない態度と似ています。

民族と性のテーマを両方踏まえて表現している映画の例。是非「ウリハッキョ」と併せてご覧ください

(関西クィア映画祭2010上映作品)

- ・七面鳥(9/4上映：白人女性とはデートしてない、と両親に答える中国系ゲイ)
- ・トランス物語に抗して(9/4+11上映：非白人トランス男性の経験も注視)
- ・モーケン、だよな?(9/5上映：タイ国内の少数民族差別と出会う、ゲイの物語)
- ・あかね色のケーブタウン(9/5上映：人種隔離政策下の南アの物語)
- ・Queer Women of Color—有色女性のクィアたち(9/10上映)
- ・刑務所のトランスジェンダー(9/11上映：アフリカ系MtFが出演)
- ・違いの診断(9/12上映：日系人を含む非白人も多数出演)